

タウンミーティング議事録

1 日時

令和4年12月18日（日）午後1時30分から3時まで

2 場所

おおたかの森センター

3 出席者

（1）特別職等

井崎市長、石原副市長、田中教育長

（2）部局長等

須郷総合政策部長、伊藤市民生活部長、伊原健康福祉部長
大島環境部長、内子ども家庭部長、石野まちづくり推進部長
矢幡土木部長、大塚教育総務部長、宮本学校教育部長

（3）事務局（秘書広報課）

若林課長、軍司課長補佐、中山主事、村田主事
金子会計年度任用職員、須賀主任主事（記）

4 来場者数

22名

5 質疑回答

裏面のとおり

Q 市民

おおたかの森地区の小中学校のキャパシティに関する質問です。

このおおたかの森地区は特にファミリー層が増えており、おおたかの森小中とおおぐろの森小中、それから市野谷に小学校を新設すると聞いていますが、その後の新設予定はないと認識しています。

地域住民としては、このおおたかの森小中は非常に大きな学校で、キャパシティもかなりのものだと思っており、市野谷地区に小学校ができるということは、中学校も新設していかないと、いずれ受け入れきれなくなるのではないかというところを非常に心配しています。

以前より、子どもの増加動向について、流山市では独自に6年ほど先までシミュレーションしているということを伺っており、毎年見直しを行っていると思うのですが、現状においても、新設中学校がなくてもカバーできるという想定になっているのでしょうか。また、上振れした場合のシミュレーションはされているのかというところについてもお聞かせいただければと思います。

A 学校教育部長

現時点では、令和6年度に新設小学校に移ることになる児童も、中学校ではおおたかの森中学校への入学が可能です。中学校を新設せずとも教室数は足りている状況です。

また推計及び想定値については、来年度から3年後までを推計値、4～6年後までを想定値としています。現時点で生まれているお子さまが6歳になり、小学校に入学する際に必要な教室数は、推計及び想定値でカバーできている状況です。

お子さまの出生予定数までは予測が難しいのですが、一方で、住民登録者数に加え、この地区への流入者数の予測を含めた推計及び想定値ですので、現時点の数値でカバーできていると考えています。

A 市長

人口動態、或いは人口推計に関しては、宅地開発がピークアウトしてきており、特に都市計画上の集合住宅を建てられるような場所はもうほとんどありません。

このため、今までのような急激な人口増加というのとはなくなり、特におお

たかの森地域については、新たな大型マンションの建設がないので、人口増加の傾向は、低減して緩やかになっていくだろうと考えています。

一番難しいのは出生率であり、これは推計値を出すことができないので、実績値を踏まえながら、出生率を想定していくこととなるのですが、平成16年から、平成20年代半ばぐらいまでの十数年間で、全国的に合計特殊出生率が減っていく中、流山市では4割も増加しました。これが保育園の待機児童ゼロに時間がかかったり、小学校を次々と前倒して小学校の建設する事態に繋がりましたが、出生率が上がるのか、横ばいとなるのか、或いは低減していくのかは、実数値を見ていかないとわかりません。

ただ、合計特殊出生率が、今までと同様に、毎年伸びていくということは、いくら流山でもありえないのかなと思っています。

いずれにしても、土壇場になって何かをするということのないよう、この数字を注視し、計画的に対応できるようにしてまいります。

Q 市民

日本では以前より全人口の5人に1人が75歳以上となる2025年問題が叫ばれております。

流山では、4月1日現在、全人口約20万5000人のうち、75歳以上は2万5000人程度と聞いています。

つまり、75歳以上の割合が、日本全国では5人に1人の中、流山市では、10人に1人ということになり、高齢者がかすんでしまって、忘れられていくのではないかと心配になりましたので、どうか高齢者が安心して暮らせるまちづくりをお願いします。

広報ながれやまによると、介護職になるなら流山ということで、県内初となる市独自の介護職員処遇改善事業として、介護職の方のお給料に支援があることへの喜びの声が聞こえてきています。

また「もっと安心 ずっと流山」は1年に1度発行されており、自宅で最期まで過ごすための準備に関することへの案内が記載されていますが、発行回数を増やし、広報の間に挟んでいただくなど、情報を広めていただきたいと思います。

現在、我が家に来る介護ヘルパーさんの、平均年齢は70歳であり、家事援助をしてくださるNPOの市民助け合いネットのボランティアの方の平均年齢は78歳となります。

ヘルパーやボランティアの皆さんに何かがあった際には、お手伝いに来ていただけてなくなってしまうので、ぜひ、増員していただくことにも力を注いでいただきたいと思います。お給料分だけ増やしても、なりたいたいと思う人がいないと、どうになってしまうのかとても心配しています。

最後に、介護している家族への応援が全くないことが気になります。

親が元気なら子も元気というように、家族が元気なら、自宅で介護されている患者も幸せで元気だと思いますので、どうか介護している家族の声に耳を傾け、応援する取り組みをお願いしたいと思います。

A 健康福祉部長

実体験に基づくご提案とてもありがたく思います。

2025年問題は本当に本市にとっても切実な課題です。75歳以上の方は先ほどご紹介いただいた人数となりますが、65歳以上の方となると4万6000人を超える人数となってまいります。この方々が今後もずっと元気でいられるようにすることと、介護が必要になった際には安心して介護が受けられる体制づくりは本当に大事だと思っています。

おうち療養情報誌「もっと安心 ずっと流山」は、医療と介護の連携を促進し、住み慣れた地域で希望すれば最期まで過ごせるようにとのコンセプトで、年に1回の発行を続けてきましたが、ご指摘いただきましたとおり、皆さんにもっと知っていただくためには、年に1回の発行で良いのか、紙面による発行だけで良いのかなど、前向きに検討する必要があると考えています。

そして、介護をされている家族への応援は本当に必要なことだと思います。

介護をされている家族への支援という観点は、皆さまに広くご案内ができてなかったことだと感じましたので、気持ちを健やかに、しっかりと休息できリラックスできるような、介護をされている方に焦点を当てた情報発信も強く意識していきたいと思います。

そして介護ヘルパーさんの高齢化についても、介護保険制度始まり20年を超えましたが、当時は40～50代で現役としてご活躍いただいていた方々が来た方がどんどん高齢化しており、今後の介護の担い手不足が懸念されています。介護フェアということで、各事業所と一緒に、介護職を目指す方に向けた合同説明会などについても、コロナ禍ということで昨今は実施が難しかった中、今年は何とか実施することができました。今後も、介護のことを知っていただき、担い手として活躍していただけるような取り組みを進

めていかなければならないと切に思います。

Q 市民

都内に住んでいるのですが、流山セントラルパークの駅の近くで女性と子供向けの事業を営んでいます。

特に働く女性が増えてきている中、子育て等から、女性の労働力の持続というのは難しいと感じているところがあり、なかなかイメージしにくいのですが、特に産前産後の女性にも、人生100年時代を見据えた体づくりや産前産後ケアが大切だという話もよく出ます。

私の職場内でも、スタッフに子どもがいて、どうしても保育園に預けることができないときは、子育ての経験がない若いスタッフに見てもらうという取り組みを始めており、どこかの企業では大学生が子育て世帯の家に泊り込み子育てを体験するといったような取り組みを行っている聞いたことがあります。

先ほど介護の担い手不足のお話もありましたが、この取り組みの介護バージョンといいますか、流山市という若い労働力が整っている地域だからこそ、若い力を生かしたプログラムを作成したり、仕事として業務委託するなど、色々とできることがあるのかなと思いましたので、感想としてお話をさせていただきました。

Q 市民

自治会の来年度役員を決める時期なのですが、ごみ集積場所の関係で、端的に申し上げると、役員をやりたくないため、退会される方が多いという状況に悩んでいます。

自治会費を支払い、その会費からカラス除けのネットを購入、設置したりしながら集積所を利用している人がいる一方で、役員逃れで退会しつつも、集積所を使用している人がいるということに不平等感を覚えるという意見が出てきています。

このことに関して、すでに市として一定の答えが出ていることも存じていますが、安心して自治会が成り立つよう、市としても支援していただけるとありがたいです。

自治会がしっかりと持続してくということは、市にとっても重要なことだと思いますので、何とかこの雰囲気何とか払拭するためのご協力をお願いします。

したいです。

A 環境部長

自治会の皆さまにおかれましては、日頃よりごみの集積所を管理していただいていることについて、この場を借りてお礼申し上げます。

ごみの集積所は、5世帯以上が集まって、一定の要件を備えた施設を作っただけであれば、集積所として使えるとしていますが、利用については、自治会に入会していることが要件とはなっていません。

一方で、自治会内では、鳥よけネットなどを自治会費で負担しているため、自治会に入らずにごみの集積所を利用するということに不平等感を覚えるというご意見が出ていることかと思えます。

金銭面についてはよくお話をする必要がありますが、例えば、自治会に入らずにごみの集積所を使うのであれば、入会していない方にも掃除当番を順番に負担していただくなど、一定の役割分担をもって、周りの方と円滑にお話し合いをする方法などをアドバイスさせていただいています。

ごみの集積所だけのご指摘ではないと思いますが、ごみの集積所に関して、解決に至った事例などもご紹介していますので、クリーンセンターまでご相談いただければ幸いです。

A 市民生活部長

ただ今ご相談いただきましたような自治会としての課題については、コミュニティ課でも色々とお相談を受けているところです。

少子高齢化が日本全体で進んでいる中で、流山に転入していただく若い世代の方が増えているものの、自治会への加入率は伸び悩んでいる傾向にあるという課題については、市としても認識をしているところですが、この傾向は流山市に限ったものではないようです。

問題解決のための今後の取り組みとして、活動を円滑に行っている自治会の取り組みを講演のような形で共有いただき、課題を抱えている皆さまが、意見交換も行えるというサミットのようなものを来年は予定していきたいと考えています。

自治会活動は、平成21年に制定された流山市自治基本条例の中でも、市の担い手として位置付けられており、市としても引き続き、様々な支援を行ってまいりたいと思いますので、ご意見がありましたら、ぜひお聞かせいた

できれば幸いです。

Q 市民

後平井のマンションに住んでいますが、先ほどお話にあがりました市野谷の新設小学校には10分程度で登校できますが、八木南小学校には25分ほど時間がかかります。

そのような中、学区の割り振りについて事前の説明がなく、また、私のマンションは新設小学校の学区に入っていないようであり、どのように学区を決めたのかお聞きしたいです。また、兄弟で上の子が八木南小学校で、下の子は新設小学校学校に行くといったことはあり得るのでしょうか。

2点目として、自治会を立ち上げた中で問題になっているのが災害対策についてです。他のマンションでは、防災体制が作られているところもあると聞きますが、市の指導や他のマンションの事例共有といった支援をいただけると嬉しく思います。

A 学校教育部長

おおたかの森小学校の教室数が、令和6年度に不足することになるため、おおたかの森小学校区内の「市野谷地区」に新設校を建てることになっています。そのため、関係する自治会へのアンケートの案内と学区であるおおたかの森小学校の保護者へのアンケートを実施しています。

児童数の推移については、先ほど申し上げた推計想定値で十分検討させていただいた上で、地域コミュニティの分断を避けることや、安全に登校できることに重点をおき、教育委員会より学区案をお示いたしました。

その後、保護者の皆様方へのアンケートを実施するとともに、通学区域審議会での審議及び答申を経て、新設小学校の正式な学区とさせていただいております。

ご指摘いただきました兄弟のケースにおいては、基本的に、上のお子さまが在学している学校に下のお子さまも入学できるよう配慮しております。

今後も、新設小学校の通学路における危険箇所を十分に検討し、対策をとりながら、令和6年度の開校を目指しておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

A 市民生活部長

マンションという話もありましたが、マンション管理組合という中においても、自主防災組織を立ち上げていただくことは一つのメリットになるものだと考えています。

自主防災組織的を立ち上げていただくと、各自治会の中で防災に関する様々な機材や災害用備蓄品の購入の際に、市独自の補助制度がありますので、この補助制度を活用し備蓄品を揃えていくことができます。

また、市の防災危機管理課という部署では、職員が皆さまのもとにお伺いして災害や防災に対する講座を行っています。

自主防災組織の立ち上げにあたっての細かな手続き等については、昨年、マンション管理組合から二つの自主防災組織を立ち上げていただいた実績等のお話も含めてご案内させていただきますので、防災危機管理課までお問い合わせいただければ幸いです。

Q 市民

八木南小学校は遠く、交通事情も良くないため、できれば近い新設小学校に通いたいと思う方が多くいます。一方で、八木南小学校の児童の中には、私たちのマンションの子どもたちが多く在籍しているため、一気に移動してしまうと八木南小学校が困ってしまうのではないかといった声も上がっています。将来的な見通しなどはあるのでしょうか。

A 学校教育部長

八木南小学校については、現時点で令和10年には1300人を超えるとという想定値が出ています。市野谷地区の新設小学校も初年度から児童数がどんどん増え続け、それに合わせて校舎の増設が必要になってくる状況です。

よって、現時点では、八木南小学校区から、新設小学校区への学区変更ということは検討しておりません。

ただし、今後も児童生徒数の推移を注視する必要があると考えておりますので、いただいたご意見を参考にさせていただきながら、適切に対策をとってまいります。

Q 市民

隣接市との境界地区周辺の道路は、歩道が壊れていたり、危ない場所が多

くあると感じます。歩道の整備等は近隣市と協力してできているのでしょうか。

また、自治会活動について、ごみ集積所の散乱や見守り隊の活動など、高齢者層の多い自治会区では、非常に大きな問題になっており、輪番制が滞るなどの問題も出てきています。市からも色々な支援金を出していただいているとは思いますが、高齢の自治会区に限っては、もう少し、支援金の額を増やしてもいいのかなと思っています。

最後に、私の子どもは障害を抱えているのですが、学校や親、関係機関の間での連携が取るのが難しいと感じています。学校と病院などの関係機関の連携を、親が仲介して動いている状態であり、文部省とかのホームページ見ますと、学校と関係機関等の行動連携の例が掲載されたりしていますが、形骸化していると思います。

その背景には教員不足などの問題もあることかと思うのですが、一方で、ICTやギガスクールといったカッコいい名前だけが先行してしまっているような現状があり、学校によるとは思うのですが、息子に聞いたところ、配布されたタブレットもなかなか活用できていない様子です。タブレットのスペックをみても、ソフトが動かないようなスペックだと思います。

A 土木部長

隣接市との境界に係る道路整備ということでお話いただきましたが、現地立ち合いなども含めてご相談にのらせていただきたいと思いますので、後ほど詳しい場所を教えてくださいませんか。

通学路であれば、学校関係者も含めて安全確認をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

A 市民生活部長

支援金のご提案については、支援金が増額されれば、必ず高齢化した自治会が活性化するとは捉えにくいところもありますが、いずれにしても高齢化社会の問題は一部の自治会だけに限った問題ではありませんので、今後も引き続き研究していきたいと思っています。

他の近隣市のいろんな取り組み等を行っているそういった事例なども紹介させていただきつつ、支援金の部分が必要なのかどうかということは整理してまいりたいと思います。

A 学校教育部長

学校現場や関係機関との連携は、非常に大切であると考えております。

学校には発達障害を持っているお子さまも通っていますが、発達障害を持っているお子さんは、実はものすごい才能を持っている可能性があります。そういった才能を伸ばすためにも、関係者間の連携は非常に大事なものです。そのためにも、市として学校と保護者、関係機関の連携体制をしっかりと構築していかななくてはならないと思います。

教員不足に関するお話もございました。教員に関しては、現在、20代から30代の教員が増加しており、結婚されてお子さまができ、産休育休に入る方もたくさんおり、そういった際の代替講師を完全には配置しきれない状況が起こっています。

代替講師の配置については、県教育委員会にも要望しているところですが、市としても学校が子どもたちたちの指導に適切にあたれるよう、人材発掘の努力をしております。

また、ご指摘いただきましたように、ここ数年は、ICT教育やギガスクール構想、或いはタブレット端末の活用といったことが、コロナの影響で前のめりに進んでおり、なかなか現場が追いついていないところもあるのではないかと思います。

しかし、流山市としては、いち早く東京理科大や民間企業の方々と連携し、ICT教育を進めています。ICT支援員を各学校に配置し、何か困ったことがあれば、その方にすぐ聞くことができるような体制も整えています。

学校現場も、すべての職員がICTを得意としているわけではありません。地域の方々の中にもICTに長けている方々がたくさんいらっしゃると思いますので、今後は、そういった方々のご協力もいただきながら、ICT教育を進めていきたいと考えております。

Q 市民

現在、自治会の中で40代の中間層の方々が地価の値上がりを理由に他へ移ろうとする動きがありますが、その後の空き家問題なども心配です。

ICT教育は中国からは20年、ヨーロッパからは30年遅れており、スピーディーに手を打っていただきたいと思います。

Q 市民

毎朝、市道沿いの歩道を使って駅まで向かっている際に感じたことなのですが、通勤通学の歩行者の方、集団登校の子ども、保育所への送り迎えをするご父兄のベビーカーで込み合う歩道に、この7月から、自転車通学する中学生が大量に出現しました。

最初は集団登校かなと思っていましたが、どうも通学路として指定されているようで、歩道にはルールのある中で、2～3台横並びになって横をすり抜けるといったような無秩序な状態となっているため、3つ提案させていただきます。

1点目として、市には、学校や自治会、警察などから構成される円卓会議を作り、マナーやルールを共有するための音頭とりを行っていただきたいと思います。

2点目に、通学路として指定するのならば、自転車計画ネットワークにて、しっかりと通学路の交通ルールに関する位置づけを行っていただきたいと思います。

3点目に、少し学校教育と関わってくると思うのですが、道路交通法で自転車のルールが定められている中で、子どもたちは先生に「ここはこうに通行しなさい」と教わっていることかと思いますが、ただ先生の言うことを聞くだけでなく、安全かどうかを中学生自身がしっかりと認識し、車道を走るか歩道を走るかを判断できるような、自己判断能力を身に着けるような教育をお願いしたいと思います。

A 学校教育部長

中学生が自転車で横並びに通行している点については、学校に申し伝え、対応したいと考えています。

また、今お話しいただきました「自己判断能力」については、今後、生徒が中学校を卒業し、高校生や社会人として歩みを進める上で、とても大事なことだと思います。それを育むのが学校の役割でもあると思いますが、今のお話をうかがうと、まだまだ不足している部分があるのかなと感じます。

市としても、このお話を学校と共有させていただき、保護者や地域の皆様のご協力をいただきながら、子どもたちが十分な「自己判断能力」をもって、地域の力となる人材に育ってくれるよう学校教育を支援してまいります。

Q 市民

以前のタウンミーティングで提案させていただきました南流山地域図書館・児童センター駐車場への緑地帯の設置案を取り入れていただきましたことにお礼申し上げます。

百聞は一見に如かずということで一茶双樹記念館を見てきましたが、大変素晴らしいところでした。おおたかの森からもバスが出ていますので、ぜひおおたかの森にお住まいの方もご覧になってください。

本日提案したいことは、公共施設の利用料に関することです。福祉会館は無料で利用できる一方、公民館やセンターは有料となっています。家の近所に南福祉会館があり、老人の憩いの家という別名もありますが、地元の人はいづらいていると思っています。公共施設はインターネットで予約できるようになっていることもあり、他地区の方が一人で真夏の暑いときに大広間で冷房をかけて4～5時間使用しているという状況にありますので、それであれば、使用料を徴収したほうがいいのではないかと思います、提案いたします。

また、広報ながれやま12月1日号に地球温暖化防止月間・大気汚染防止推進月間に関する記事が掲載されていますが、縦割り行政の弊害だと思います。

私は仕事で市役所庁舎に行くことがありますが、柏市は冷房28℃、暖房20℃という設定をしていますが、流山市では夏場も冬場も24℃と一定した設定をしているとのことでした。

市民に対してエコのお願いをするならば、まずは市役所から率先して進めたいと思いますので財産活用課と協議して、節電等に取り組んでください。

また、流山市が制定した景観条例について、この条例を知らない職員が多くいらっしゃいますが、なぜ職員が知らないのでしょうか。

A 副市長

まず初めに、一点だけ誤解のないように申し上げておきたいことがございます。庁内のエアコンは夏場28℃で設定しており、ご指摘いただいた24℃というのは聞き間違いか、案内した職員のミスだと思います。

公共施設の利用料については、どのように考えるか庁内で様々な議論を重ねてきましたが、結論を申し上げますと、今はそうではないかもしれませんが、当時の判断としては、高齢者は低所得の方が多いため、高齢者福祉のた

めの福祉会館は無料で、その他の多世代が利用できる公民館類似施設は有料という仕切りをしてまいりました。

これは現実に条例でも定めており、「今の高齢者はしっかりとお金を支払える」もしくは「一定の負担は行ってもらべきだ」という意見が総論としてまとまるのであれば、私は改正をすべきだと思いますが、現時点では先ほど申し上げた仕切りとなっているということをご案内させていただきます。

A まちづくり推進部長

景観条例については、建物建設に関係する部署の担当となれば携わることが多いのですが、全職員が景観条例について熟知するということはなかなか難しいことかと思えます。

道路標識やガードレールなどを含め、建物を建てる際のガイドラインを全庁に向けて周知するという取り組みを予定していますので、今しばらくお待ちいただければ幸いです。

Q 市民

市長はいつも緑色のネクタイをしています。私も緑色が好きです。そこで提案なのですが、市役所庁舎には日本国旗、千葉県旗、そして、日の丸に合わせて白地に赤の流山旗が掲げられていますが、あの旗を緑色に変えてみてはいかがでしょうか。

Q 市民

来年度から流山南部中学校区コミュニティスクールが始まると思いますが、南部中学校区のすべての学校で学校長が代わる任期になっているのではないかと思います。全域で代わられてしまうとコミュニティスクールの流れが切れてしまいますので、そこは任期をよく考えて、学校長を指名していただきたいと思えます。

2点目として、印刷機が中学校には2台しかないのですが、中学校は、定期テストの際に大量の印刷をするので印刷機が足りません。また、印刷枚数も年間で枚数が決められており、2学期のテストの段階で印刷枚数をセーブしなくてはならず、子どもたちが学ぶためのプリントが十分に印刷できていけませんので、印刷機及び印刷枚数を増やしてください。

3点目に、今年の春はコロナで学校が休校となったり、部活動が中止なっ

たりとしたことがありました。春の大会では、部活内で3人以上感染者が出たらその部活は大会に出場できませんでした。3年生最後の大会で、市の大会を欠場すると県の大会や、その先の大会にも出られません。部活をすべて止めるのではなく、PCR検査等で問題がないということが判明したら、大会に出場できるというような柔軟な対応をお願いしたいと思います。

A 学校教育部長

学校長人事は県教育委員会が行うため、市としてはいかんともしがたい部分がございます。しかしながら、コミュニティスクールについては、市としても持続可能な組織となるよう支援をしていく必要があると考えています。

コロナにより大会に出場できなかったことについては、大変心苦しく思っております。その当時は感染対策に万全を期す必要があり、どのように判断するのがベストなのかと試行錯誤する毎日でした。

3年前のコロナの発生当初は本当に暗中模索の状態でしたが、現在は児童生徒の感染時にも、迅速かつ適切に対処できるようになっています。コロナが発生したから即中止といった判断ではなく、各々の状況を判断しながら、安全を確保しつつ、大会に参加できるようにするなど、可能な限り教育活動の継続を図っておりますので、何とぞご協力をお願いいたします。

A 教育総務部長

学校に配置されている印刷機の台数や枚数については、導入する際に学校にヒアリングを行った上で設定しています。

現状足りていないということであれば、学校と協議し、台数や印刷枚数について再設定させていただきます。

A 教育長

コミュニティスクールは地域学校協働本部という形で実施しており、一からスタートというわけではありませんので、念のため補足させていただきます。

まず、地域学校協働本部というものが基盤となっており、地域の方や保護者の方などにも教育活動について深くかかわっていただくものがコミュニティスクールとなります。他の中学校区もそうですが、スムーズに活動いただけるよう、組織建てについても教育委員会と協力しながら進めていきたいと

思いますので、また何かご意見がありましたら、お聞かせいただければ幸いです。

Q 市民

コトエ流山おおたかの森の付近は常に1車線がふさがってしまっているような状態です。すでに完成してしまったのでどうしようもないのかもしれませんが、何か検討いただきたいと思います。

また、新川耕地の物流倉庫建設により、交通量が増加することは予測できていたと思うのですが、それにアクセスする道が整備されていないと思います。予算の関係等もあるかと思いますが、流山の確たる道として、しっかりと計画して整備していただきたいと思います。

A 土木部長

コトエの開発計画が上がった時より出入り口に関する協議は行われてきましたが、想像以上の利用量により、渋滞が発生していることは認識しています。コトエの店舗には交通誘導員の増員を申し入れており、また、渋滞の一因となっている流山郵便局の出入り口を年内中に試験的に拡幅し、渋滞の緩和を試みているところです。

次に物流倉庫付近の交通事情についても、今年千葉県知事に視察いただき、今後の千葉県の道路行政も含めて、今後の道路交通が速やかになるように一緒に協力いただけるよう、直接申し上げることができました。

今すぐに解決できるという問題ではありませんが、市としても、今後の計画を注視してまいりたいと思います。